三菱クライアント・サーバコンピュータapricot FT8000と可用性を高めるWindows NT構築技法

黒田健児*　岡村克樹**
中村洋一*　新堂隆夫**
古家俊幸*

要　旨

PCサーバとWindows NTによる情報システムは，他のプラットフォームと比べて製品コストの削減が可能で短期間でシステム開発が可能であるという特長から，利用が拡大している。利用形態も，ファイルやプリンタの共有からデータベース処理や業務システムのようにクリティカルな用途まで広がり，情報システムのプラットフォームとして重要な役割を担っている。

業務システムが長時間停止すると，企業活動に重大な影響を及ぼす。そのため，PCサーバとWindows NTによる高可用性システム構築を実現するソリューションが求められている。

三菱電機では，このような時代の要求にこたえて，高可用性システム構築のプラットフォーム製品として，三菱クライアント・サーバコンピュータ“apricot FT8000”とサーバ管理装置／サーバ管理ソフトウェア，運用管理ミドルウェア“OPENCENTER”，そして，二重系システムを提供している。また，長年にわたるメインフレームやオフィスコンピュータによるシステム構築実績から高可用性システム構築技法を確立し，それに基づくサポートサービスメニューTAFWIN(Top Availability for Windows NT)を提供している。

これらの製品やサービスを利用することにより，低コストで短期間に最新技術を取り入れたPCサーバとWindows NTによる高可用性システムの構築が可能となる。

高可用性システム実現を支える三つの要素

高可用性システムを構築するためには，ハードウェアやミドルウェアが提供する可用性向上技術と高可用性システム構築技法に基づいた適正な設計・運用，そしてサポートサービスの三位一体の対応が必す(須)である。これらの技術やサービスを利用することで，オープン製品を活用して，高可用性システム構築が可能となる。